

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502785		
法人名	特定非営利活動法人実りの里りん		
事業所名	グループホーム 凜		
所在地	〒008-0873 札幌市白石区米里3条1丁目2番4号 (電話) 011-873-1313		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価確定日	平成22年2月9日

【情報提供票より】 (平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (10月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院、札幌トロイカ病院、桑園病院、琴似ファミリークリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、閑静な住宅街に立地している。利用者の日課である散歩で、ほぼ毎日地域の清掃活動を継続している。気さくに挨拶しながら積極的に地域貢献することで、地域住民との良好な関係構築に成功している。事業所の菜園では利用者や職員だけでなく地域住民の協力を得て収穫しており、利用者の食卓を季節感豊かに彩っている。協力医療機関との緊密な連携体制や看護職員による日々の健康管理が行き届いていることも利用者の安心につながっている。2人夜勤体制を実現し、より質の高いケアサービスの提供に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題は特になかったが、管理者や職員は常に話し合いを重ね、より質の高いケアサービスの提供に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義を十分理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を日ごろのケア実践を振り返る機会として活用し、改善点を抽出して会議で話し合うことで、より質の高いケアサービスを提供できるように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、町内会長、地域包括支援センター職員、事業所職員を構成員として、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所側の活動報告にとどまらず、外部評価に関する説明や取り組み状況、運営状況に対する意見交換を活発に行っている。出された意見を基に、より良いサービス提供の目標を立て、成果について次回の会議で報告している。運営推進会議を通して地域との連携強化を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の来訪時に必ず声かけし、意見や要望の聴取に努めている。職員と家族は気軽に相談できる関係ができており、相談内容によってはデイケアとの連絡調整を図り、より良いサービスの提供へ繋げている。家族には利用者の健康状態の変化、受診結果等に添えて担当者が個別の便りを添付して報告している。金銭管理については、台帳を提示して確認してもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員及び利用者は可能な限り町内会の行事に参加し、地域住民や町内会役員との交流を図っている。新年会、敬老会、夏祭り、野外パーティー等に参加するだけでなく、散歩時にごみ拾いをするなど町内に貢献する活動を積極的に行っている。また、新年会で利用者が紹介されたり、野外行事では利用者用に席が用意されているなど地域との良好な関係が構築されている。また、地域ボランティアの受け入れや活用にも積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを実践するためのものとして「輪（地域と輪になって）」を事業所独自の理念の中に掲げ、日々理念に沿ったケアサービスに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び管理者、職員はともに利用者の尊厳を尊重するケア、地域に日常的且つ積極的に出ていく実践を積重ねながら、理念を具体的なサービスの形にして提供することに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	可能な限り町内会の行事に参加し、地域住民や町内会役員との交流を図っている。新年会、敬老会、夏祭り、野外パーティー等に参加するだけでなく、散歩時にごみ拾いをするなど町内に貢献する活動を積極的に行っている。また、ボランティアの受け入れも活発で、民謡や三味線のボランティアが定期的に訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を日ごろのケア実践を振り返る機会として活用し、改善点を抽出して会議で話し合うことで、より質の高いケアサービスを提供できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、町内会長、地域包括支援センター職員、事業所職員を構成員として、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所側の活動報告にとどまらず外部評価に関する説明や取り組み状況、運営状況に対する意見交換を活発に行っている。出された意見を基により良いサービス提供の目標を立て、成果について次の会議で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者会議で市担当者と交流したり、必要に応じて電話や窓口を訪問して確認や相談をしながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には利用者の健康状態の変化、受診結果等に添えて、担当者が個別の便りをつけて報告している。金銭管理については、台帳を提示して確認してもらっている。しかし、担当者の送付した個々の便りの内容は職員間で共有できていない。	○	特別な行事がある時には通信を発行して家族の参加を呼びかけるが、通常は担当者による個別のたよりを送付している。家族への報告内容についての問い合わせや相談等に応じるためにも写しを保管することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に必ず声かけし、意見や要望の聴取に努めている。職員と家族は気軽に相談できる関係を構築しており、相談内容によってはデイケアとの連絡調整を図り、より良いサービスの提供へつなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係の重要性を認識しており、職員の異動に際しては十分な情報共有ができる引き継ぎ期間を取って、利用者へのダメージを最小限に抑える配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はカンファレンスの度を実施し、職員のスキルアップに努めている。また、外部研修については随時情報を周知し、参加を促すとともに研修参加のための勤務調整も行っている。	○	法人事業所の運営拡大の時期ということもあって、外部研修への参加職員にやや偏りがみられる。全ての職員に段階に応じた外部研修受講機会の確保を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に参加し、同業者との情報交換や事業所訪問のネットワークを築いている。また、実習機関として他事業所の実習生を受け入れ、ともにサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、事前に本人や家族と十分に面談するとともに必ず見学を行っている。必要に応じて日帰りの体験利用の機会を設けて、事業所の雰囲気や職員にある程度慣れてから、サービス開始となるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のできない部分を支援しながらも、人生の先輩として利用者から生活の知恵や体験談を学びながら、互いに尊重し成長し合える関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や暮らし方の希望を事前に十分に把握するとともに、その時々要望を細やかに聞き取り、利用者本位の暮らしの実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制による利用者それぞれの丁寧な個別記録を基に、家族の要望や職員全員の日々の気付きをケアカンファレンスで話し合い、計画作成担当者が実情に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者それぞれの状態に応じて3～6ヶ月毎の見直しを行っている。また、利用者の身体状況や精神状況に変化が生じた場合には、主治医、家族、本人、職員と相談しながら、その都度現状に見合った新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、受診の付き添い、墓参り、初詣に同行するなど柔軟な支援を展開している。また、訪問理美容の支援、行きつけの理容院への送迎も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療に加えて、診療科目によっては以前からのかかりつけ医への受診も可能である。看護職員の配置により日常の健康管理が行き届いており、医療機関とスムーズな連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針と同意書を利用者や家族と取り交わしており、職員全員で方針を共有している。利用者の状態に変化があった場合には、家族、医師、事業所との3者面談の場を設け、対応方法を相談している。また、看取り介護の経験を活かし、勉強会を重ねて利用者や家族の希望に沿う支援ができる体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりを尊重し、気持ちや誇りを傷つけない接遇に努めている。また、個人記録の取り扱いや管理にも配慮しており、個人情報の保護を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペースに沿って、行事参加や散歩、体操、入浴、デイケア通所など、無理のないその人らしい暮らし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを採り入れた献立に沿って、旬の食材を使った季節感のある食事を提供している。利用者の嚥下機能に応じて食べやすい形態にすりつぶし、盛りつけや食器で食事を楽しめる工夫をしている。また、利用者の能力に応じて準備や片付けを職員とともにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3～4回のペースで、湯温の好みや同性介助等について利用者の希望に沿うように努め、ゆったりとした入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの趣味や楽しみである習字やコーラスなど、事業所外での習い事が継続できるように支援している。また、利用者の能力に応じて家庭菜園や掃除や洗濯物たたみ、調理、雪かき等を行うことで、役割、張り合いのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康状態や天候を考慮しながら、近隣への散歩に午前と午後の2回ほど毎日出かけている。海やお祭り、ホワイトイルミネーション等の行事外出、ドライブや買い物、デイケア利用など、事業所に籠もることのない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び管理者は鍵をかけることの弊害を十分理解しており、居室は終日、玄関は日中施錠していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、突発的な災害発生に備えて避難誘導訓練を繰り返し行っている。消防署との訓練は年2回、それ以外にも重度の利用者の避難、夜間の避難を想定した訓練を自主的に積重ねている。また、近隣との連携も図っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したレシピを基に、利用者の好みを採り入れたバランスの取れた食事を提供している。嚥下機能や食事制限など利用者個々の状態にも配慮している。また、水分量や食事摂取量は個別に記録し、一日を通じて過不足なく摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは台所を中心に利用者の様子が見渡せる配置となっており、テレビの前のソファ、窓際に沿って作られた畳の椅子など、思い思いの場所で寛げるように配慮している。また、気候の良い時期にはサンデッキでくつろぐこともできる。観葉植物や書などを飾り、落ち着いた共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの生活用品を自由に持ち込み、その人らしい居心地の良い居室となるよう配慮している。また、仏壇を置いている居室には、仏飯や仏花を供えられるよう支援している。		

※  は、重点項目。